

令和6年度 第1回 旭川市環境審議会 会議録

日 時	令和6年6月12日（水） 午前10時～午前11時10分	
場 所	旭川市総合庁舎7階 大会議室B（旭川市7条通9丁目）	
出席者	委 員	12名（敬称略：順不同） 青木委員，奥寺委員，坂上委員，篠原委員，多々納委員，張委員， 藤倉委員，本田委員，宮越委員，山田（敦）委員，山田（智）委員， 渡邊委員
	事務局 （市側）	18名 環境部（松野郷次長，澤渡次長） 環境総務課（佐藤主幹，中川補佐，高田主査，増田主査） 環境総務課環境総務係（坂田主査，高橋，笠原） 廃棄物政策課（佐藤課長，浅沼補佐） 廃棄物処理課（尾藤課長） 廃棄物処理課近文清掃工場（菅原工場長） 廃棄物処理課廃棄物処分場（齋藤所長） 環境指導課（沖村課長，佐藤補佐，細川補佐） クリーンセンター（大竹所長）
会議の公開・ 非公開の別	公開	
傍聴者	0名	
議 事	（1）報告事項 ・令和6年度 環境部主要事業の概要について （2）その他	
会議資料	＜配付資料＞ 資料1 令和6年度 環境部主要事業の概要について	

議事内容等	発言者	発言の要旨
1 開会	事務局	委員12人が出席により開催基準に達している旨報告。
2 新委員の紹介	事務局	委員1名を紹介
3 異動職員の紹介	事務局	職員3名を紹介
4 議事 (1)報告事項 ・令和6年度 環境部 主要事業の概要につ いて	会長	議事(1)報告事項の「令和6年度 環境部主要事業の概要」について事務局から説明願う。
	事務局	(資料1により説明)
	会長	説明を聞くと、以前は「自然共生社会の形成」や「安全で快適な生活環境の創出」についての説明が主であったか、最近の社会状況に合わせて脱炭素に係る事業が多くなっていると見受けられる。
	委員	報道等でヒグマの駆除に当たるベテランハンターの高齢化による人員不足や市町村による報酬額の違いが話題となっているが、旭川市の現状をお聞きしたい。
	事務局	ヒグマの捕獲従事者として登録されているハンターは23名で、報酬額については、令和6年度から1回の出動につき1万円、箱わなの設置の際にはトラックで出動するという理由で2万5千円を支払っている。
	委員	他市町村の報酬額と比較するとどうか。
	事務局	市町村によって、出動ごとに謝礼・報酬として支払う方法や地域の猟友会に業務委託料として支払う方法など、依頼の手法が異なるため一律に比較は難しい。燃料費等の物価上昇もあり、旭川市では今年度から報酬額を上げおり、金額については猟友会に御理解いただいている。
	委員	ごみの回収について、プラスチック製容器とペットボトルの排出量が多いため、ごみステーションに入り切らないことが多くカラスの被害がある。 回収日を分けることができないものか。
	事務局	プラスチック製包装容器とペットボトルは容量が大きいいため、ごみステーションに入りきらないと相談を受けることは多い。 現状では収集日を分ける、回収日を増やすなどの対策は難しいた

		め、カラスに荒らされる可能性があるプラスチック製容器包装については、通常のごみステーションに入れてもらい、ペットボトルについては、クリーンセンターで折りたたみ式のカラス対策ステーションやネットの貸し出しをしているので利用していただきたい。
	委員	シカの農業被害が多いと聞いているが対策についてお聞きしたい。
	事務局	シカの農業被害は農政部で対策しており、狩猟期に旭川猟友会に依頼し、一斉駆除を行っている。
	委員	ハトが家庭菜園を荒らす被害を受けているが対策はないのか。
	事務局	ハトは、在来の動物のため駆除することはできない。防鳥ネットなどで対策をしていただきたい。また、ハトなどの野生動物への餌やりをしているという相談があれば、注意に伺っている。
	委員	ヒグマ対策について、美瑛川は国が管理しているはずだが、国の予算で対策はしてもらえないのか。
	事務局	今年の4月にヒグマが指定管理鳥獣に加わったため、今後、国でも対策に対する補助等の準備をしていると思われる。また、北海道もヒグマ管理計画の見直しを行うため、市に補助があるとすれば、見直しが進んでからになると思う。
	委員	資料には、温室効果ガスを令和9年度までに65万3千トン削減と記載してあるが、現状を教えて欲しい。 また、記載の事業を実施することによりどれくらいの削減を見込んでいるのか。
	事務局	本市の現状の温室効果ガスの排出量は、資料に記載されているとおり、279万8千トンである。中期的な目標値として、令和12年度に基準年度の平成25年度から48パーセント削減を設定しており、現時点では目標のおよそ半分程度の削減となっている。 また、温室効果ガスの排出量の算定に当たっては、統計資料の数字に係数をかけたものを使っており、個別事業実施でどれくらいの削減量になるか具体的な数字を出すのは難しい。

	委員	現状では、目標値の半分程度は達しているということか。
	事務局	そのとおりである。
	委員	難しいと思うが、温室効果ガスの削減のためには、事業での具体的な削減量を算出するという検討も必要ではないかと思う。
	事務局	地球温暖化対策は世界的な課題であることから、脱炭素を目的とするだけではなく、地域活性化の施策に脱炭素の要素を足した取組を展開したいと考えている。いただいた意見も踏まえながら取組を実施していきたい。
	委員	旭川市には大きな工業や産業などもある。積極的に実施して地域の活性化につなげて欲しい。
	委員	脱炭素社会の形成の主な取組内容で地域エネルギー設備とあるがどのような設備を指しているのか。
	事務局	補助対象設備は、太陽光発電設備、地中熱ヒートポンプ設備、蓄電池、燃料電池システム(エネファーム)、ガスエンジンコージェネレーション(コレモ)の5つの設備となっている。
	委員	10 年前に東部まちづくりセンターが新設され、地中熱ヒートポンプが設置されたが、稼働実績とそれ以後の設置状況について教えていただきたい。
	事務局	東部まちづくりセンターは、施設管理の部局が異なるため稼働実績は把握していない。 地中熱ヒートポンプ設備については、この新庁舎にも設置されている。相応の広さがある場所や予算が必要となるため、予算と効率のバランスを勘案して導入を進めている。
	委員	一般の新築住宅に導入された事例はあるか。
	事務局	ここ数年で、住宅に地中熱のヒートポンプを導入した事例は把握していない。
	委員	再生可能エネルギーについて、旭川市では風が少ないため風力発電は難しく、太陽光発電は旭川では最も導入できるエネルギーと

		考えるが、地熱発電も含めて現状はどうなのか。
	事務局	風力発電は、盆地という地形の特性上、市街地では難しいが、環境省のREPOSでは、周りの山頂では一定の導入ポテンシャルがあると示されている。再エネ開発企業からの声があれば開発される可能性はある。 地熱発電については、温泉地のようなところでないとなれば開発は難しく、REPOSでも旭川にはポテンシャルはないと示されている。 太陽光発電は本市では、最も取り組みやすい再エネとなっており、補助金による支援も行っている。 メガソーラーといわれる大規模発電所もいくつか建設されており、その電力を活用できればと考えている。
	委員	太陽光発電について、もう少し活発に取り組んでいける方法はないものか。
	事務局	個人向けには、建物の屋根に太陽光発電を取り付けるのが一般的で、補助金による支援も実施している。 また、新庁舎には20kwの太陽光設備を屋上に取り付けており、ほかの市有施設にも取付け可能な施設がないか調査をしている。 屋根に設備を取り付けるとなるとそれなりの加重があるため、雪の積もる旭川市では建物の耐荷重が必要になる。 空いている土地を利用した太陽光発電の導入については、民間企業との連携について話をしている状況である。
	委員	大気、水質等の環境基準項目について、光化学オキシダントのみが非達成とあるが、発生源となる事業場への改善指導をしているということでしょうか。
	事務局	事業場への改善指導は、排水、排ガスなど様々な項目に対して行っている。市内で特定の事業者が光化学オキシダントの発生源となっている認識はない。 なお、光化学オキシダントは全国の自治体で99.2パーセントが非達成となっている。
	委員	光化学オキシダントは、かなり以前から非達成の状態であり、数値も高いと認識している。それは、旭川市の地形に影響を受けているのか。
	事務局	地形の影響は判断できないが、光化学オキシダントは大陸からの

	委員	流入の影響が大きい。そのため市内の発生分が道内の他市町村より高いとは言い切れない。
	委員	北海道の原子力発電の再稼働について、いつになるか気にしている。
	会長	個人的な意見だが、原子力発電は必要だと考えている。
	事務局	事務局からはあるか。
	事務局	今年度、国が中長期的なエネルギー政策の方向性を示す「エネルギー基本計画」の見直しを行う。その中で検討されるかと思うので、状況を注視していきたい。
	事務局	市としては、地域で電力を作り、それを地域の中で循環させるような社会の形成を目指している。
	委員	今の話は、この場での議論の対象となるのか。
	会長	皆さんの意見を多く集めるため、ある程度の広い意見が出るとは思っている。ただ、会議の時間も限られるので、できるだけ議事に沿って進めたいと思う。
(2)その他	会長	その他について事務局から何かあるか。
	事務局	ありません。
4 閉会	会長	本日の議事は以上とし、事務局に交代する。
	事務局	以上で、本日の審議会を終了する。